

追加型投信 / 内外 / 株式

ファンド情報提供資料  
データ基準日: 2019年10月31日

## 未来イノベーション成長株ファンド 2019年初来の運用状況と運用担当者に 聞く当ファンドのポイント

本資料の一部を  
動画\*で  
わかりやすく解説!



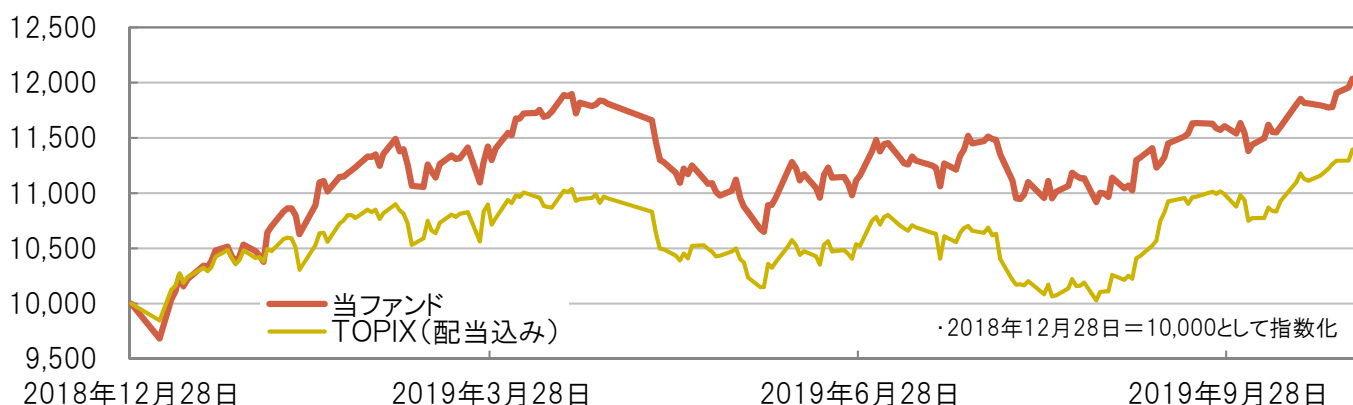
\*動画は一定期間経過後、予告なく削除されることがあります。

平素より、「未来イノベーション成長株ファンド」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

本レポートでは、当ファンドの2019年初来の運用状況と、運用担当者に聞く当ファンドのポイントについてご報告いたします。今後とも引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 2019年初来の運用状況

2019年初来の基準価額とTOPIXの推移(期間:2018年12月28日~2019年10月31日)



・当ファンドの基準価額(1万口あたり)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。また、当ファンドは、基準日時点での分配金の支払い実績はありません。・TOPIX(配当込み)は、当ファンドのベンチマークではありませんが、市況推移の参考として掲載しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

#### ■国内株式市場の投資環境

国内株式市場は、米中貿易問題の進展期待やFRB(米連邦準備制度理事会)の利上げに慎重な姿勢が好材料となり、2019年4月下旬まで堅調な展開となりました。その後は、再び、米中貿易問題を巡って一進一退の展開となりました。

#### ■当ファンドの運用状況(2019年初から9月末)

2019年初から9月末で、当ファンドの基準価額は、組入銘柄の株価が堅調に推移し、15.4%の上昇となりました。当ファンドでは、2018年末に大きく株価を下げた高成長銘柄を中心としたポートフォリオを維持しました。

2019年1-3月は2018年10-12月期の決算内容等を材料に個別物色される展開となり、5G需要が顕在化し始めた「アンリツ」、キャッシュレス決済の拡大の恩恵を受けると考えられる「GMOペイメントゲートウェイ」等2018年末に大きく株価を下げた好業績の成長銘柄が反発し、基準価額は上昇しました。

4-6月は2018年度の決算内容や2019年度の見通し等を背景にIT(情報技術)需要拡大の恩恵を受けると考えられる「日本ユニシス」や炭素繊維の需給改善が見込まれる「東レ」等の株価上昇が寄与しました。

7-9月は中国への追加関税第4弾の動向に左右されましたが、その後米中貿易協議再開のニュースから、上昇に転じました。日経平均株価の構成銘柄に新規採用されると発表された「エムスリー」や、半導体関連需要の下げ止まり等の思惑から「東京エレクトロン」、抗がん剤開発の順調な進捗がみられた「第一三共」等の株価上昇が寄与しました。

#### ■2019年10月の運用状況

2019年10月は、米中貿易問題に対する懸念が後退したことで株式市況は上昇しました。また、下旬から発表されている7-9月期の企業業績や見通しのコメント等から、今後の業績回復が期待されます。市場予想を上回る業績を発表した、5G関連需要増が期待される「村田製作所」等の株価上昇が寄与しました。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

## 未来イノベーション成長株ファンド

運用担当者  
に聞く

## 当ファンドのポイント

本資料の内容を動画で解説！

運用主担当者  
内田 浩二

\*動画は一定期間経過後、予告なく削除されることがあります。

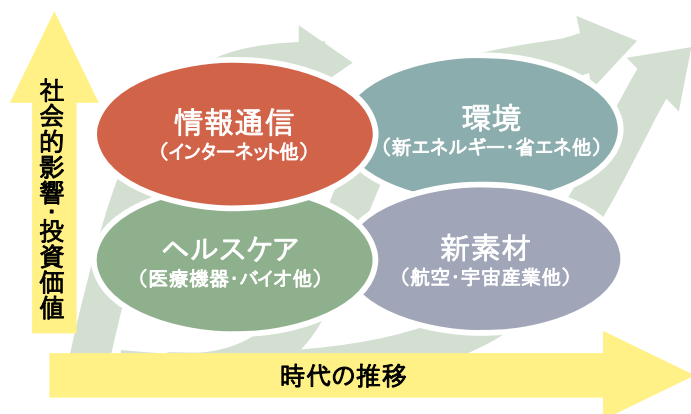
コラム  
当ファンドの  
ポイント**Q** 当ファンドの運用にあたり今後の市場環境において注目しているポイントと保有銘柄の決算動向について教えてください。**A** 注目ポイントは「イノベーションの創造と活性化」と「世界景気の先行き」の2つです。足下で発表された当ファンドの保有銘柄の2019年7-9月期決算では企業業績に改善傾向がみられます。

当ファンドの運用にあたり今後の市場環境において注目している2つの注目点があります。

1つ目の注目点は「イノベーションの創造と活性化」です。イノベーションが生み出したモノやサービスは、新市場の創造とその市場の活性化を進展させ、企業や社会の課題等を解決していきます。そのイノベーションを生み出した企業や、活用した企業の業績が拡大することで、これらの成長銘柄への投資意欲が強まるとみています。

時代の推移に伴い、イノベーションの波は変化するため、最先端の技術やサービスを見極めて運用を行います。当ファンドは今後成長が期待される「情報通信」、「環境」、「ヘルスケア」、「新素材」の4つの投資テーマに基づき現在投資しています(図表①)。

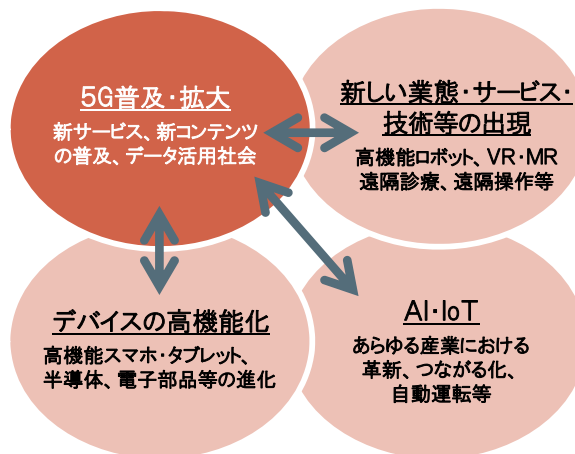
未来イノベーション(4つの投資テーマ)の波(図表①)



その中でも、注目しているのは情報通信分野の「5G」と呼ばれる次世代ネットワークです。5Gは自動運転、遠隔診療、遠隔操作、VRとよばれる仮想現実などに活用され、ビジネスや生活を大きく変える可能性があり各産業の成長が期待されます。

(図表②)

情報通信における注目点(図表②)



5G関連では、通信の「高速・大容量」、「低遅延」、「多数接続」を可能にする技術に関連する企業、そして、その効率的な情報伝達を活用する企業に注目しています。

2つ目の注目点は「世界景気の先行き」です。激化する米中貿易戦争により、米国景気や中国景気の先行きに対する懸念が高まっています。

(図表③黄色ハイライト部分)

(次ページへ続きます)

■ 上記はイメージであり、すべてを網羅するものではありません。■ 2019年10月末現在の投資テーマとしては、情報通信、環境、ヘルスケア、新素材などに注目しておりますが、将来変更する可能性があります。

## 未来イノベーション成長株ファンド

(前ページからの続きです)

しかし、2020年に米国では大統領選挙が控えていることから、トランプ大統領は、中国と何らかの合意に至る可能性があると考えられます。

(図表③赤色ハイライト部分)

合意に至れば、景気先行き不透明感が払拭され、先送りされていた中国の設備投資等が再開されると考えます。また、2020年は中国の「所得倍増計画」の最終年度であることに加え、2021年は中国共産党結党100周年であり、景気減速を回避する政策が期待されます。

そうすれば世界景気に対する拡大期待が高まり、世界的に株価は企業業績の成長を織り込む展開になると想定します。

こうした環境下、イノベーションの創出、活用等により、独自の成長要因を持ち着実に利益成長を遂げる確度が高いと判断した銘柄などに引き続き投資をしていきます。

最後に、当ファンドが10月末時点で保有している銘柄の足下で発表されている決算動向についてお伝え致します。

2019年11月1日現在、当ファンドが保有している54銘柄のうち約半分の企業が7-9月期決算を発表しております。

第一三共など内需関連株が市場予想を上回り好調となった一方で、安川電機など景気敏感株では、市場予想を下回ったものが多く、減益や下方修正も散見されました。

電気機器関連株は、業績の底打ち感がみられたことから株価がすでに上昇している銘柄も多く、決算発表の結果を受けた株価の反応はまちまちの展開となりました。その中でも、当ファンドが注目している5Gなどに関連する半導体、電子部品、測定機器等各社の業績拡大傾向が、各社の決算説明会などで確認できました。

(次ページへ続きます)

## 2019年10月以降の主なイベント(図表③)

	日程	国	主な注目スケジュール
2019年	10月29日-30日	米国	FOMC(連邦公開市場委員会)
	11月13日	米国	トランプ米大統領が輸入車関税の是非を判断する期限
	12月10日-11日	米国	FOMC(連邦公開市場委員会)
	12月15日	米国	中国製品3,000億米ドル相当に対する追加関税(対中関税第4弾)を発動(9月1日の一部発動延期分、追加関税率は15%)
	12月頃	中国	中国経済工作会議
2020年	1月28日-29日	米国	FOMC(連邦公開市場委員会)
	1月31日	欧州	英国EU離脱期限
	2月3日	米国	アイオワ州党員集会予備選開幕
	2月11日	米国	ニューハンプシャー州予備選挙
	3月頃	中国	全国人民代表大会
	3月3日	米国	スーパーチューズデー (米国大統領選予備選や党員集会が最も多くの州で行われる日)
	3月17日-18日	米国	FOMC(連邦公開市場委員会、経済見通し公表)
	春頃	日本	習中国国家主席来日
11月	米国	米国大統領選挙	

(出所)各種報道資料等から三菱UFJ国際投信作成

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■ 日程および内容は変更される可能性があります。

## 未来イノベーション成長株ファンド

(前ページからの続きです)

## ■エムスリー(2413)

●2019年4-9月期の売上高は前年同期比15.5%増、営業利益は同19.3%増となり、良好な決算。

●同社の主力サービスのひとつである「MR君」などのメディカルプラットフォーム(MPF)事業が改善傾向にあり、同社の成長が再評価される展開に期待。

「MR君」は、顧客である製薬会社に対して、単なる情報提供だけでなく販売計画までコンサルティングできるように改良を試みたものの、4-6月期は人員配置がうまくいかず混乱していました。しかし、7-9月期は、それが解消傾向にあり、「MR君」を中心とした、MPF事業の構造改革の成果が見え始めました。加えて、MPF事業の同期の売上高・営業利益とも前年同期比で20%以上伸びるなど受注も好調です。

さらに、海外の売上高は18.7%増、営業利益は71.7%増となるなど、あまり市場で期待されていなかった中国事業も成長軌道に乗ったとみられます。

## ■アンリツ(6754)

●2019年4-9月期の売上高は前年同期比12.3%増、営業利益は同90.5%増となり、良好な決算。

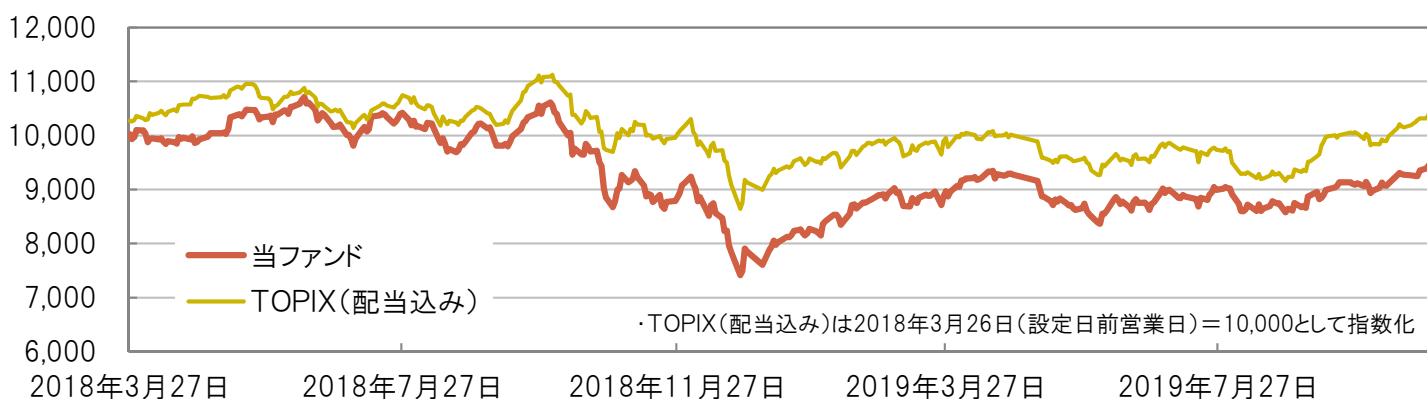
●会社側は2020年3月期の営業利益予想を100億円から115億円へと上方修正。

同社の主力である計測事業において、5G関連のモバイル市場向け開発用計測器需要が旺盛であることが確認されました。決算発表翌日の株価は下落しましたが、これは7-9月期の受注が4-6月期比で減少している点を懸念する動きが市場で強まったためとみられます。

しかし、足下ではモバイルの機能ごとの受注に留まる5G関連の需要は、今後5Gの規格が決まれば、まとまった大きな案件となる可能性が高く、世界でみても競争力の強い同社が恩恵を受けると考えます。特に2020年以降のさらなる拡大が期待されます。

・上記は、未来イノベーション成長株ファンドのご理解を深めていただくために、組入銘柄を紹介したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。

## 設定来の基準価額とTOPIXの推移(期間:2018年3月27日(設定日)~2019年10月31日)



## 当ファンドとTOPIXの期間別騰落率(期間:2018年3月27日~2019年10月31日)

期間 比較時点	過去1ヵ月 2019/9/30	過去3ヵ月 2019/7/31	過去6ヵ月 2019/4/26	2019年初来 2018/12/28	過去1年 2018/10/31	設定来 2018/3/27
当ファンド	4.0%	4.4%	1.6%	20.0%	4.8%	-5.8%
【ご参考】TOPIX(配当込み)	5.0%	7.6%	4.3%	14.2%	3.9%	4.3%
【ご参考】差分	-1.0%	-3.1%	-2.7%	5.8%	0.9%	-10.1%

■当ファンドの基準価額(1万口当たり)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。また、当ファンドは、基準日時点での分配金の支払い実績はありません。■TOPIX(配当込み)は、当ファンドのベンチマークではありませんが、市況推移の参考として掲載しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。■設定来の当ファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しており、設定来のTOPIXの騰落率は、2018年3月26日(設定日前営業日)を起点として計算しています。■実際のファンドでは課税条件によってお客様ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見直し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

## 未来イノベーション成長株ファンド

**ファンドの目的** 日本を含む世界の株式を主要投資対象とし、主として中長期的な値上がり益の獲得をめざします。

**ファンドの特色**

1

次の時代を創るイノベーション※を捉えることをめざします。

- 次の時代を創るイノベーションを見極め、魅力ある投資テーマを選定します。
  - 投資テーマに基づき、日本を含む世界の未来を牽引する企業へ積極的に投資することで、将来の高い成長を享受し、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
- ※ 当ファンドにおいては、技術の革新にとどまらず、これまでとは違った新たな考え方、仕組み等を取り入れて、新たな価値を生み出すことをいいます。

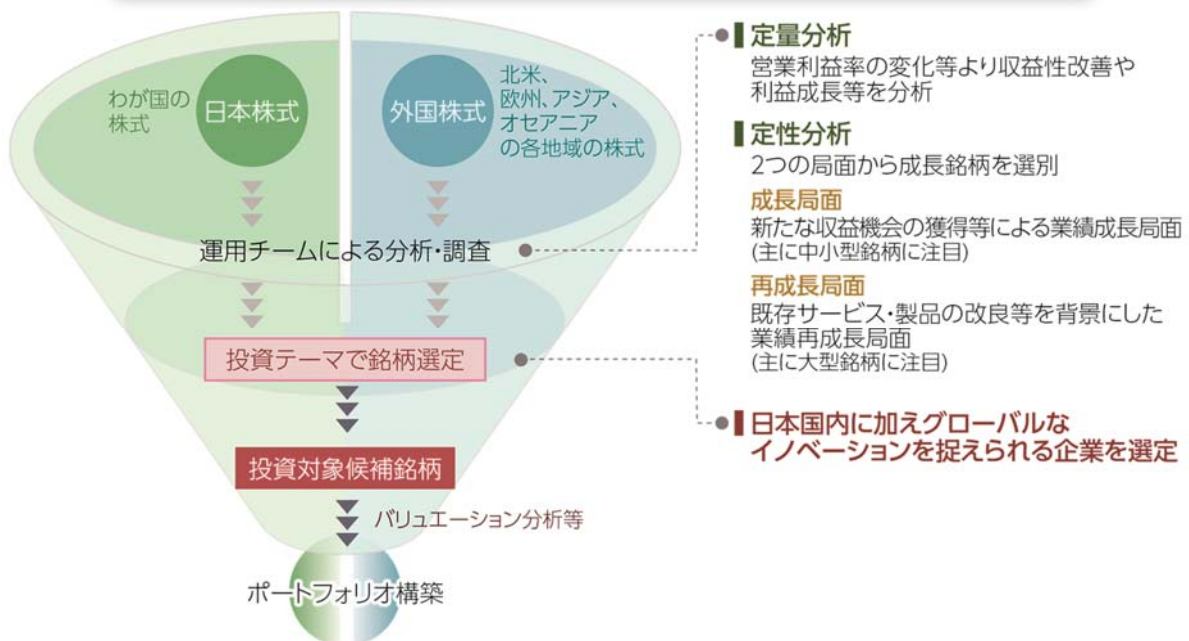
2

日本株を中心に世界の株式に投資を行います。

- ボトムアップ・アプローチによりテーマや産業の分散を意識しながら競争力のある企業を選定します。日本の企業を中心に、日本国内に加えグローバルなイノベーションを捉えられる企業に投資を行います。
- 組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。

「ボトムアップ・アプローチ」とは、投資対象となる個別企業の調査、分析に裏付けられた投資判断をもとに銘柄選定を行い、その積み上げによりポートフォリオを構築していく方法です。

## 運用プロセス



・ 上記は銘柄選定の視点を示したものであり、すべてを網羅するものではありません。また、実際にファンドで投資する銘柄の将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。上記は、2019年6月末現在のプロセスであり、今後変更されることがあります。

3

年1回の決算時(6月20日(休業日の場合は翌営業日))に分配金額を決定します。

- 分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

## 未来イノベーション成長株ファンド

### 投資リスク

#### ■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

#### 価格変動リスク

株式の価格は、株式市場全体の動向のほか、発行企業の業績や業績に対する市場の見通しなどの影響を受けて変動します。組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。

#### 為替変動リスク

組入外貨建資産については、為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。為替ヘッジを行う場合で円金利がヘッジ対象通貨建の金利より低いときには、これらの金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上のヘッジコストとなる場合があります。

**上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。**

#### ■その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

#### ■リスクの管理体制

ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。また、定期的に関催されるリスク管理に関する会議体等において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。

#### 【本資料で使用している指数について】

東証株価指数(TOPIX): 東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。同指数に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

#### 【本資料に関するご注意事項】

- 本資料は三菱UFJ国際投信が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

## 未来イノベーション成長株ファンド

ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

### お申込みメモ

購入時	<b>購入単位</b> 販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
	<b>購入価額</b> 購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※ 基準価額は1万円当たりで表示されます。
換金時	<b>換金単位</b> 販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
	<b>換金価額</b> 換金申込受付日の翌営業日の基準価額
	<b>換金代金</b> 原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込みについて	<b>申込締切時間</b> 原則として、午後3時までには販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
	<b>換金制限</b> ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
その他	<b>購入・換金申込受付の中止および取消し</b> 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。 また、信託金の限度額に達しない場合でも、ファンドの運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、購入のお申込みの受付を中止することがあります。
	<b>信託期間</b> 2028年6月20日まで(2018年3月27日設定)
その他	<b>繰上償還</b> ファンドの受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
	<b>決算日</b> 毎年6月20日(休業日の場合は翌営業日)
	<b>収益分配</b> 年1回の決算時に分配金額を決定します。(分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。) 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。

その他	<b>課税関係</b> 課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人投資者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。
	<b>購入時手数料</b> 購入価額に対して、 <b>上限3.30%(税抜3.00%)</b> 販売会社が定めます。 くわしくは、販売会社にご確認ください。
<b>換金時</b>	<b>信託財産留保額</b> ありません。

### ファンドの費用

◎お客さまが直接的に負担する費用

<b>購入時</b>	<b>購入時手数料</b>	購入価額に対して、 <b>上限3.30%(税抜3.00%)</b> 販売会社が定めます。 くわしくは、販売会社にご確認ください。
<b>換金時</b>	<b>信託財産留保額</b>	ありません。

◎お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中	<b>運用管理費用(信託報酬)</b>	日々の純資産総額に対して、 <b>年率1.6940%(税抜 年率1.5400%)</b> をかけた額
	<b>その他の費用・手数料</b>	以下の費用・手数料についてもファンドが負担します。 ・ 監査法人に支払われるファンドの監査費用 ・ 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料 ・ 有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 ・ その他信託事務の処理にかかる諸費用等 ※ 上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

- ※ 運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。
- ※ 上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

委託会社(ファンドの運用の指図等)	三菱UFJ国際投信株式会社
受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)	三菱UFJ信託銀行株式会社
販売会社(購入・換金の取扱い等)	以下の通り

設定・運用 … 三菱UFJ国際投信株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
 加入協会：一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会

#### 【販売会社情報一覧】

商号	登録番号等	加入協会
株式会社三菱UFJ銀行(委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社) (インターネットトレードのみ)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会／ 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号	日本証券業協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／ 一般社団法人金融先物取引業協会／ 一般社団法人第二種金融商品取引業協会